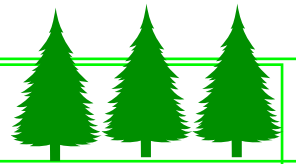




# みつぎ便り



第212号 5月号 令和6年5月1日発行 [http://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



## ニワゼキショウ

ニワゼキショウ（庭石菖）は北米原産のアヤメ科の花です。芝生や草むらの中で、白や赤紫などの小さな五ミ程の花を咲かせます。

背丈は十センチくらいですが、葉や茎は小さいながらもアヤメに似ています。六枚の花びらの中央部は黄色でその周りは青紫色の存在感あるグラデーションがあります。

英名は「Blue Eyed Grass」ですが、その名の通り青い目のようにも見えます。

明治時代に観賞用として輸入されたものが、生命力が強く帰化植物と

なりました。交配種もあり群生して生えるため、似た花が混ざって咲いていることもあります。

花言葉は繁栄、豊かな感情、愛らしい人などのポジティブな意味合いなので探してみたくありませんね。

見次公園では西側の入口付近に樅の木が数本ありますが、その下あたりで見ることが出来ます。五月〜六月頃に可憐な花を咲かせますので探してみてくださいね。（朋）

## アリ

日本には主な在来種を合わせると約三百種類ほどのアリがいます。その中でも日本全国の家の庭先や公園、道ばたのような身近な場所に見られる代表的なアリはクロヤマアリやトビイロシワアリで日常的に最も出会う機会の多いアリです。

アリは社会性を持った昆虫で、巣を作って集団生活をします。一つの巣に女王アリを中心とした社会生活を営み、雄アリ、兵隊アリ、働きアリなどが存在し、それぞれが階級ごとに役割を果たし、集団生活を営んでいます。女王アリは卵を産み続けますが、成長したアリのほとんどは働きアリとなり、巣作り、餌集め、



幼虫の世話などの役割を担って、効率よく子孫を増やしているのです。

アリの巣は地表の小さな出入り口から地下への縦穴が通路になり、そこから左右に枝分かかれし、女王アリの部屋を始め育児室、食料貯蔵室、繁殖室などがあり、それらが互いにトンネルでつながっています。

みつぎ公園内にも草むらのかげなどに多く見られる出入り口穴の地下にはアリの巣があり、それぞれ複雑なアリ社会を形成しているのです。

（昭）